

関係各位

兵庫県病虫害防除所長

令和 6 年度病虫害発生予察技術情報 第 2 号を發表します。

登熟期を迎えた普通期の水稻栽培において、イネごま葉枯病の発生が見られます。発生が目立つ圃場では、翌年の防除対策にご留意ください。

令和 6 年度病虫害発生予察技術情報第 2 号
イネごま葉枯病の発生と生態について

1 対象作物 水稻（普通期栽培）

2 病害名 イネごま葉枯病

3 本病の特徴と発生状況

- (1) 本病の病斑は周りが褐色、中央が灰褐色～灰白色楕円形で、幼穂形成期ごろから下葉に病斑が形成され、穂ばらみ期以降急激に増加する（写真左）。
- (2) 普通期の水稻を対象に当所が 9 月下旬に行った調査では、22 圃場中 12 圃場（発生圃場率 55%）で上位葉に発生が認められ、うち 5 圃場（同 23%）で中発生以上となり、多くの病斑が認められた。本病は穂枯れ（写真右）を引き起こし、種子や被害わらが翌年の伝染源となる。
- (3) 本病は地力不足の田、老朽化水田、砂質田および還元田等、肥料切れしやすい圃場で発生しやすい。
- (4) 近年、地力に依存している水稻栽培では、移植期から出穂期にかけて、気温上昇に伴って土壌中の窒素成分（地力）の発現が早まり、肥効不足が生じているおそれがある。同様に、肥効調節型肥料のみを使用している場合は、窒素成分の溶出も早まることから、生育後半に肥効不足が生じて葉色低下につながっているとみられ、本病発生との関連が疑われる。

4 翌年の防除対策

- (1) 病原菌は種子伝染するため、種子消毒を徹底する。また、被害わらは伝染源となるためすき込みにより腐熟させる。また、含鉄資材やケイ酸質肥料等による土壌改良を行う。
- (2) 肥料切れは発生を助長する。穂ばらみ期に葉色が低下している場合、倒伏や遅れ穂に留意して、出穂するまでに穂肥を施用する。また、堆肥施用など土づ

くりに努める。なお、穂肥施用が必要な葉色の基準は、兵庫県稲・麦・大豆等指導指針（第1章稲作 P48-49）を参照する。

- (3) 出穂前の葉での発生状況に注意し、穂ばらみ期（出穂前）に防除を行う。
これにより、いもち病と同時に防除できる。



写真 ごま葉枯病の病徴（左：ごま葉枯病の病斑、右：穂枯れ）

*兵庫県稲・麦・大豆作等指導指針（第1章稲作）は以下のURLに掲載

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/documents/lseyou.pdf>

*兵庫県総合防除計画は以下のURLに掲載

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>

*病害虫・雑草防除指導指針 農薬の検索は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/noyakusearch/hyogo>

*病害虫・雑草防除指導指針 参考資料は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/haishinfile/list/hyogo>

*この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載しています。

<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222

2022年3月1日より「兵庫県病害虫防除所」X（旧Twitter）を開設しています。
発生予察情報など病害虫に関する情報を提供しますので、是非フォローをお願いします。

Xアカウント (https://twitter.com/hyogo_boujoshou)

